

# 第1学年3組 道徳学習指導案

平成24年11月5日(月)

授業者 教諭 若林 尚子

- 1 主題名 着実にやり抜く強い意志 内容項目1-(2)  
資料名 「心の涼風」 出典 彩の国の道徳 中学校「自分を見つめて」埼玉県教育委員会

## 2 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目1-(2)は「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」をねらいとしている。人間としてよりよく生きるには、目標や希望を持つことが大切である。「目標」とは大きなものだけではなく、日常生活の小さな目標であっても、それが達成された時には満足感を覚え、自信や勇気が起こるものである。その達成感は、次の目標に向かっての意欲を引き起こし、人生を切り開いてゆく原動力となる。どんなに小さな目標でも、繰り返し達成感を味わい積み重ねていくことで、生涯かけての理想や目標を持つことにつながり、そのことが日々の生活を充実させることへとつながっていく。そのためには、広い視野で、物事を正しく判断し、目標を実現するための諸条件を検討しながら、困難に屈せず粘り強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度が必要である。

### (2) 生徒の実態

本学級は、ここ一番という時に底力を発揮するクラスである。行事では練習の成果を十二分に発揮し、良い結果を残してきた。しかし、その過程を見ると、自分たちが決めた目標に対して、練習に手を抜かず着実にやり抜こうとする態度が不十分である。また、学習では、定期テストも回を重ねるごとに、目標をもって頑張る者もいれば、勉強に対する意欲が見られない者もでてきている。いわゆる中1ギャップに直面し、こんなはずではないと考えたり、思うように学習などで結果が出ずプレッシャーを感じたり自信がなくなり、それを乗り越えられずにいる者も何人かいる。中学生のこの時期は、例えば部活動など、自分の好むことや価値を認めたことに対して、意欲的に取り組もうとする。しかし、障害や困難に直面すると簡単にあきらめてしまったり、理想通りにいかない現実にも悩むことも多い。今後の中学校生活を有意義に過ごすためには目標を持ち、それに向かって粘り強く最後まであきらめずにやり抜こうとする姿勢は大切である。一つ一つの積み重ねが希望につながり、豊かな生き方につながっていく。

クラスのアンケートの結果によると、「3年間の部活であなたが最終的に目指していることは何ですか。」という質問に対して運動部のほとんどが、県大会出場、学総優勝、ベスト4など大きな目標を持っていた。また、「今までの部活動で前向きになれなくなったことはありますか。」という質問には、65%が「ある」と答えている。入学から6か月の間に65%が壁にぶつかったことになるが、その全員が、「今は何もない。」「今は頑張っている。」「全くなり、楽しくなった。」「いつも限界まで練習している。」「たまにはあるけど、頑張っている。」と答えている。それぞれが、中学に入学しほんの半年の間に、3年先の目標を持ち壁にぶち当たり、それを乗り越え、前に進み、ある生徒は大会にも出場し、反省をもとに前に進んでいる。

そこで、小学生から中学生になり、勉強や、部活動、夢や希望に対して、目標を持って一步一步努力していくということが大切であると考え、目の前の小さな目標であっても、それを達成した時は誰もが嬉しい気持ちを味わい、次の目標設定の力となる。時には自分が立てた目標すら忘れてしまうこともあったり、うまくいかないと実感し挫折してしまうときも多々あるが、困難に屈しないで、ねばり強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度を育てるように指導したい。

クラス独自のアンケート実施

### (3) 資料について

主人公の康雄とその親友の誠は中学3年生、陸上部に所属しており、100mと110mハードルを専門としていた。最後の大会では自己最高記録を出すことを目標に部活動に励んできた。しかし、その大会前に左腿にけがをしまい、練習ができなくなってしまう。やっと練習に参加できるようになったのが大会の3日前であった。

親友でもありライバルでもある誠は、康雄の足を心配するが、一度も誠に勝ったことがない康雄は、迫っている大会を前に焦り、練習してもうまくいかなかった。そのため、ハードルは辞退して100mに専念しようとするが、その時の康雄の焦る気持ちや、自己最低記録が出るかもしれないという不安な気持ちを押さえさせたい。誠からは「うまくいかないから逃げただけだ。もう一度考え直した方がいい。」と言われるが、焦りや不安、劣等感などからグラウンドを去ってしまう。次の日も練習には行けなかったが、心の中で「ちくしょう、大会前なのに何やってんだ、俺は。でもなあ・・・。」とつぶやく。誠に言われ、本当のことだとわかっているけれど、くやしい気持ちや、練習に出た方がいい、ハードルのことも気になるという複雑な気持ちを捉えさせたい。

次に、練習をさぼった日、靴の中に紙切れに書いた誠からの手紙が入っていた。その手紙を読んだ時の康雄を襲った、友達への気持ちやハードルへの未練、そして消えない不安や焦りを捉えさせたい。その後、部屋で何気なく今まで2年半もの間書いてきた、陸上ノートを見た。入部からの記録や反省が何ページにもわたって記されていた。その時、今度の大会は入部から長い日々の積み重ねの最後の目標である大会であること、今までそれに向かっていくつもの大会があり練習があり、そのたびに反省をし、前に進んできたことを思いだし、今自分は不安や焦り、出ない言い訳を探す自分自身に負けていたこと気付く。その時の康雄の気持ちを押さえたい。

最後に、結局はハードルにも出場し練習不足などから記録は出なかったが、ハードルに足をぶつけ転倒しても起き上がりやっとの思いでフィニッシュする。不安や焦りがあったにもかかわらず、康雄にやはりハードルに出ようと決意させたものは何であったかを考えさせたい。

### 3 研究との関わりについて

小中連携に関するアンケートによると、「自分なりの目標は持ちたいと思う」の問いに対して小学校6年生では89%、中学校1年生では81%、「自分のこれからの将来は明るいと思う」の問いには小学校6年生では76%、中学校1年生では67%が、「とてもそう思う」、「わりとそう思う」と答えている。自分のこれからの将来に関しては、明るく楽しみであり目標を持って生活したいと思っているようである。しかし、2項目は、共にポイントは下降している。その理由としては、中学1年生になると、自分というものがわかってきて、思うようにならないことがわかってくるために、あきらめてしまったり、安易な方向に流されているからではないかと思われる。計画を実行する態度についても、小学校では69%に対し、中学校では50%大幅にダウンしている。自分の将来に希望を持っているが、それを実現していくために、計画を立て、それを実行していこうとする力は不足していると思われる。その点を考えると、目の前の現実に対して乗り越えていこうとしたり、あきらめずに実行していこうとする力は、小学生よりも中学生の方が低下しており、小学校で抱いた夢や希望や目標に対して挫折を感じてしまう割合が高いのではないだろうか。

思い通りにならなくても、一步一步努力して前進していくことが大切であること。失敗にも価値があり、その過程が大切であること。これらの重要性からみて、1-(2)の視点で授業をすることが必要であると考えた。

4 ねらい

より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う

事前に夢や希望、将来のことについてのアンケート実施、道徳性に関する実態把握へ。

5 他の教育活動等との関連

事前指導	・学級活動 目標の立て方を知り、実際に目標を立ててみる。(ライフスキル教育) ・総合的な学習の時間 職場体験学習・発表会
事後指導	・教室の道徳コーナーに意見や考えを提示し、相乗的な意識を高める。 ・授業の様子、授業後の生徒の反応等を学級通信等で発信、家庭とも連携を図る。

事後指導として進路講演会実施等、行事との関連も考えられる。

6 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価
導入	1 アンケートの結果を聞く。		・アンケートの結果を聞いて、ねらいとする価値にかかわる、今の自分の気持ちをとらえさせる。 ☆自分の気持ち確認できたか
展開	2 「心の涼風」を読み、話し合う。  ①誠に「うまくいかない自分から逃げたいだけだろ」と言われた時、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。	<p>主人公・・康雄 } 誠に勝てない 100m 110mハードル 誠 } 中3 陸上部 親友 ライバル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生最後の大会 目標は自己最高記録</li> <li>・練習中ハードルに足をかけ転倒 左腿に激痛</li> <li>・ドクターストップ 大会の3日前に復帰</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お前に言われたくない。</li> <li>・誠に一緒には走りたくない。</li> <li>・人の気持ちも知らないで何言ってるんだ。</li> <li>・けがで練習ができなかったのだからしょうがないだろう</li> <li>・俺の気持ちがわからないんだ</li> <li>・けがをしてうまくいかない気持ちがわかっていない。</li> <li>・言われて悔しい。</li> <li>・自分だってできれば出たい。</li> <li>・最後の大会で、一番悔しいのは自分なのに・・・。</li> <li>・言われていることは間違っていない。</li> <li>・その通りだけれど言われるといやだ。</li> <li>・練習がうまくいかなく不安だ。</li> <li>・記録も伸びずこのままでは不安だ</li> <li>・実力が出せない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料が把握しやすいように、短冊等を用い、主人公の確認と条件・状況をおさえ、資料を捉えやすくする。</li> <li>・生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読となるようにする。</li> <li>・自己ベストを目標に頑張ってきた康雄の気持ちを押さえ、最後の大会で自己最低記録が出てしまうかもしれないという不安や、練習でもうまくいかないことからくるあせりから、ハードルを辞退したいと思う気持ちに共感させる。</li> </ul>
閉			<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗に対するおそれ、焦り等、接続期に誰でも感じる不安に共感させる</li> <li>・練習を休みながらも。「ちくしょう、大会前なのに、何やってるんだ」と、心の中で康雄の揺れる気持ちを押さえる。</li> </ul>

②誠からの手紙を読んだ時、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。



- ・今までやってきたのに残念だ。
- ・出たい気持ちは、もちろんある。
- ・心配してくれる気持ちはありがたい。

・今までがんばって来たのが無駄になるのは・・・。

・このまま出ないと後で後悔するのかも。

- ・このままでは誠に悪いな。
- ・誠が思っていてくれたから頑張ってみようかな。

③ノートを見ながら康雄は何を考えたのでしょうか。



- ・実力が出し切れないまま、最後まで誠に負けて終わりたくない。
- ・復帰したばかりで無理することもない。
- ・調整が間に合わない。
- ・100mにかけてみる。
- ・無理をしてまたけがをしたくない。



- ・やれるだけやってみようかな。
- ・今までの努力が無駄になってもいいのか。



・けがを理由に負けたくないから逃げていたのかな。

・今までこの大会を目標に何年も頑張ってきたの

だからやってみよう。

- ・出なかったら後悔するな。
- ・自分は陸上が好きだ。結果ではない。
- ・結果ばかりにとらわれて、走ることが好きで頑張った自分はどうしたんだ。
- ・自分と誠はライバルだけれども今まで支え合ってきた。

・役割演技を通して、今まで、最後の大会を目標に頑張ってきただけに、思うようにいかない悔しさや、くじけそうになる気持ち、その反面このままで本当に良いのかと揺れ動く康雄の気持ちを捉える。

**※役割演技を通して自分の問題として考えさせ、自分の道徳的価値観を明確にする。**

**☆主人公の気持ちを深く考え、表現できたか。**

・今まで支え合ってきた親友の誠に対する感謝や、申し訳なかったという思いがあることを捉える。

小集団での話し合いを通して、ノートを見ながら、陸上部に入部してからずっと3年最後のこの大会を目標に頑張ってきたことを思い出し、どうしようかと悩む康雄の心の内を考える。

**※小集団で自分の中の主人公は「ハードルは辞退するか」「大会に出るのか」で意見を聞きあわせる。**

**※小集団での話し合いを全体の前で再現する。→他者理解・人間理解へ**

**※全体で更に話し合わせる。**

**☆お互いに表現しあうことで他者を理解し、自己理解を深めながら道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容)**

**☆自己の道徳的価値が明確になったか。(発言内容)**

**☆他者の意見を聞き道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容)**

・一人ずつ考えを述べ、質問したりしながら、同じところ、違うところを明確にさせる。

・小集団での話し合いを全体の前で発表させる。

・自分の価値観を明確にさせてから、学級全体で更に話し合う。

思い通りにならなくても、1歩ずつ努力することの大切さについて、お互いの価値観を共有し合うための話し合い。

④康雄に大会に出ようと決意させたものは何でしょうか。

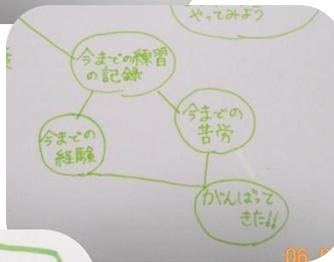
- ・あきらめてはだめだ。
- ・記録だけが問題ではない。
- ・自分は逃げていた。



康雄が大会に出ようと決心させた物。

理由。1つは手紙です。手紙に誠からのはげまの言葉が書いてあったから、勇気が出て、大会に出ようと決めた。  
2つめは陸上ノートです。陸上ノートにさまざまな記録や経験が記されていて、すべてありえて来たから、こんな所で立ち止まらなければならない!!! と思った。

3 今日の学習を振り返り、自己の在り方を見つめる。



自分が3年までがんばってきたもつから...途中であきらめたが、ダメなと思った。心



※小グループで話し合い、画用紙に自由に書き込む。

※各小グループでの話し合いをまとめて発表する。

☆お互いの意見を聞くことで、他者を理解し、自己理解を深めながら道徳的価値の自覚を深まったか。

(発言内容)

☆自己の道徳的価値が明確になったか。(発言内容)

☆他者の意見を聞き道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容)

多様な方法による価値観を共有により、1—(2)についての考えを深める。

「失敗は成長の過程」

・主人公の話を通して気づいたことや、今までの自分の在り方で気付いたこと等を机間指導しながら把握する。

※書く活動を通し、自己の生き方を見つめさせ、道徳的実践意欲を高めさせる。

☆出来ていない自分の姿に気づいたか。(記述内容)

☆自分の生き方として捉えられたか。(記述内容)

終末

4 教師の説話を聞く。

生徒指導関係で、地域の小学校に指導に向かっている教員の説話

ねらいとする道徳的価値を心の中で深められるように余韻を残して終わるようにする。

### 8 評価の観点

・話し合いが活発に行われ、自分の考えを发表或し、友達の考えを聞いたりする中で、自分の考えを深めることができたか。(発言・観察)

・目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲が高まったか。

(発言・観察・ワークシート)

・授業の流れは、ねらいに迫る上で効果的であったか。

(話し合い)

9 板書計画

**心の涼風**

より高い目標に向かって一歩一歩前進する

康雄	誠	誠に勝てない 100m 110mハードル 中3 陸上部 親友でありライバル ・3年生最後の大会 目標は自己ベスト更新 ・練習中ハードルに足をかけ転倒 左腿に激痛 ・ドクターストップ 大会の3日前に復帰 ○「うまくいかないから自分から逃げただけだろう」と言われた時
----	---	--

○誠からの手紙を読んだ時

- ・誠は分かってくれていたんだ。ありがたい。
- ・このままでは誠に悪い
- ・今まで頑張ってきたことが無駄になってしまっているのか。
- ・出たい気持ちはある。

○ノートを見ながら考えている

- ・今からでは間に合わない。
- ・怪我が怖い。
- ・記録が出なければ意味がない
- ・やれるだけやってみようかな
- ・怪我を理由に逃げていたのか
- ・誠とは支え合ってきた。
- ・今まで何度乗り越えてきた。
- ・今回も乗り切れるはず。
- ・結果ばかりにとらわれていない
- ・走ることが好きだ。

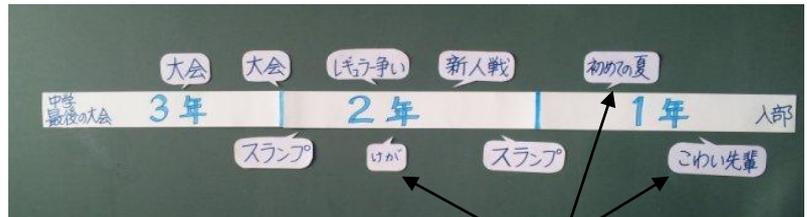
○康雄に大会に出ようと決心させたものは何か

3年生	2年生	1年生
-----	-----	-----

(ノートの内容をわかりやすく提示)

生徒の振り返り

中学一年生 心の軌跡 11月5日 (資料名) 心の涼風 今日、この学習を通して、どんなことを感じ、学びましたか。 また、これからの生き方を考えよう。	この学習を通して、部活で、くいきそりに なり、かんばる。このろつをせねばい なり、かんばる。このろつをせねばい で、今校の自分の生活を変えてゆきたい。なと思 いました。それと、人生で何百回も落ち込んでしま う事は、人間だから、あると思いますが、た ちがちなおぼえと振ってあげ、結果 が、自分自身、次にいかせる何かを思 います。自分も、こうかいたく、何 度も、立ちあがってかんばり たいです。最後に、先生か七〇ハ ン、て、名を、残して、くれ、す、 ぐ、気に入、た、今、後、せ、し、 たら、なり、た、その言葉、思、い、 だ、して、夢、に、近、づ、 ける、よう、に、日、々、努、力、し、 て、ゆ、き、たい、です。
---	---



事前にとったアンケートにあった言葉

授業のあった日の一言日記より

日記  
 今日、研究授業でた。今日の勉強は「心の涼風」とい  
 うのをやりました。私は、今バレー部の顧問です。く  
 じけようになつた事は、一度もありません。でも、これ  
 くらい練習や、「嫌だ」と思ふこともあるかもしれ  
 ませんが、かんばりたいと思  
 います。私は、バレーボール部が、好きなので、  
 これから、頑張ります。